

JOYO BANK NEWS LETTER

2025 年 11 月 14 日

植田支店および小名浜支店の新店舗への移転について ～店内レイアウト検討に AR 技術を活用～

常陽銀行（頭取 秋野 哲也）は、福島県いわき市内に新店舗を新築し、2027 年 1 月頃に植田支店および小名浜支店を移転しますので、下記のとおりお知らせいたします。

当行では、有人店舗を「お客さまとの大切な接点」と位置づけ、さまざまなご相談で来店されるお客さまが、安心してじっくりとご相談いただけるよう、店内環境の整備に努めております。新店舗におきましては、プライバシーに配慮した相談ブースや、明るくカジュアルな雰囲気の待合スペースを設置し、お客さまにより一層くつろいでいただける空間をご提供いたします。

今回、DX の新たな取り組みの一環として、AR 技術を活用した実証実験を行い、新店舗の店内レイアウト検討に活用いたしました。

当行およびめぶきフィナンシャルグループは、「地域とともにあゆむ価値創造グループ」を長期ビジョンの目指す姿として掲げ、今後ともステークホルダーの皆さまの課題に寄り添い、ともに歩み、解決することで、新たな価値を創造し、地域社会の持続的成長に貢献してまいります。

記

1. 移転の概要

移転予定時期	2027 年 1 月頃
新店舗の所在地	福島県いわき市小名浜中町境 17-1 ほか（住居表示未定）
概 要	● 植田支店および小名浜支店は、新築する建物へ移転し、同一店舗内で営業いたします。 ● 移転に伴う店名、店番、口座番号などの変更はございません。 ● 建物は環境に配慮し、ZEB 仕様といたします。エネルギー消費を抑えつつ、快適な空間を実現し、CO2 排出量削減にも貢献いたします。 ● 移転日等の詳細につきましては、改めてご案内いたします。



新店舗外観イメージ

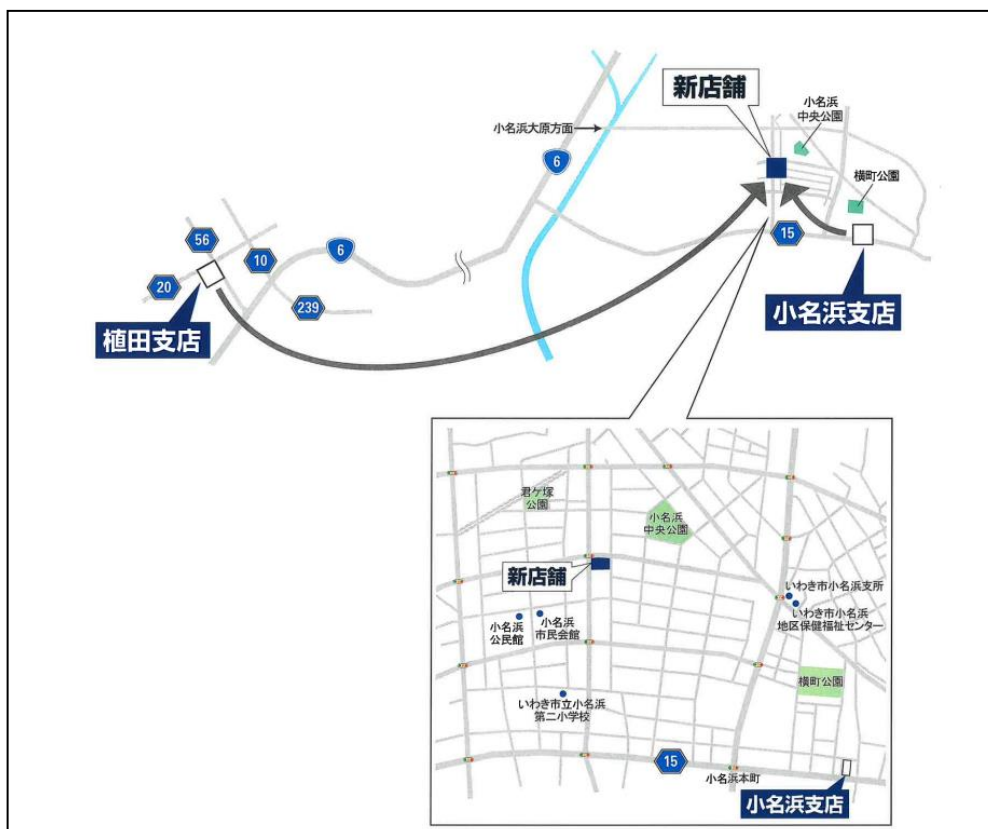


新店舗内観イメージ



新店舗内観イメージ

【所在地略図】



2. 店内レイアウト検討における DX の取り組み

AR 技術※ ¹ の活用	● 専門業者※² と連携し構築した店内の 3D データをグラスデバイス※³ を通じて現実空間に重ねて表示し、店内における什器・備品の大きさや配置、距離感などを検証しました。 ● 建築前の段階で立体的な実寸検証が可能であるなど、AR 技術の有用性が確認できました。 ● 現時点で、金融機関において AR 技術を活用したレイアウト検討の事例はなく、当行としても初の試みとなります。当行では、当技術を含めたさまざまな分野の新技术について、今後も活用を検討してまいります。
-------------------------	--

※¹ AR (Augmented Reality) 技術：グラスデバイスなどを通じて、現実空間に仮想情報を重ねて表示する技術（拡張現実技術）。

※² 専門業者：「XR 大忠システム」…AR 技術等のシステム開発を専門とした事業者。

※³ グラスデバイス：ユーザーの視界にデジタル情報を重ねて表示させるメガネ型デバイス。

当行は、株式会社 NTT コノキューデバイスが開発・販売する「MiRZA」を使用。

【XR デバイス「MiRZA」の利用イメージ】



AR で表示されたバーチャルなインテリア（椅子など）の配置を操作する様子

以 上